

二〇一三年七月一六日(参加者一六名)

山鉾の並ぶ大路をたもとほり	せいじ
背もたれは垂直登山電車かな	"
エジソンの碑へ直立す今年竹	"
冷奴あれば足りると病める夫	うつぎ
山の駅待つのも楽し合歡の花	"
野仏のトタン屋根打ち夕立来る	"
四阿の影に屯す鯉涼し	ひかり
風の出で蒲の葎の騒ぎ出す	"
尖塔の鐘は亭午や秋澄める	"
扉の開くや否や飛び込む蝉時雨	わかば
美しき彩窓仰ぐ堂涼し	"
池広し蓮の大葉の波打てる	"
読み聞かせ教室窓に金魚玉	小袖
渇水のダム湖に安堵返り梅雨	"
風涼し砂丘の渚ロードかな	"
草茂るここが梅田の一等地	きづな
睡蓮の風に四阿去り難し	"
近道やへくそ葛に触れまじく	"

海の日や山また山の里に住み	はく子
道祖神へくそかづらをまとひけり	"
青田風鎮守の杜へ通ひ来る	"
草野球回し呑みする麦茶かな	宏虎
雨垂れの調べまたよし夏座敷	"
風狂や物干竿に釣忍	こすもす
夏野菜盛る自家製のスパゲティ	"
磊磊を見せて細りし夏の川	ぼんこ
蒲の穂を揺らして泳ぐ錦鯉	つくし
戻り梅雨組みし足場もそのままに	有香
緑風に窓全開すケアハウス	満天

定例会の選

二〇一三年七月一六日(参加者一六名)